

Panasonic

建築設計

REPORT
ARCHITECTURAL DESIGN REPORT
vol.39 2021・11

特集——ニューノーマル時代の観光再生



村山 慶輔

Murayama Keisuke [株式会社やまどころ 代表取締役]

「住んでよし、訪れてよし」の
観光再生とまちづくり

コロナ禍以前、世界全体のGDPの約10%を占めていた観光産業の貢献度は、2020年には半減した。大打撃を受けた日本の観光産業は、その後どのような姿になるのか。コロナが招いた社会がニューノーマルと呼ばれるように、観光も新しい形の再生が求められている。インバウンドツーリズムによって日本を元気にしたいと、2007年、他に先駆けてインバウンド専門ポータルサイト「やまどころ.jp」を開設した村山慶輔氏にニューノーマル時代の観光再生をたずねた。

観光は「目的」ではなく 地域振興のための「手段」

— 観光産業の現状をお教えてください。

世界規模の感染拡大により、訪日観光客が激減し、インバウンドに依存していた観光産業は壊滅的な打撃を受けました。国内観光を見ても、緊急事態宣言が何度も実施されてマーケットは縮小しています。また、近隣観光といわれるマイクロツーリズムは国や地域から金銭的サポートが出ているものの、非常に限定的で、観光関連産業全体は非常に厳しい状況にあります。

しかし、この状態も永遠に続くわけではなく、いずれ収束します。ワクチン接種も増えて行動制限もなくなれば、国内移動や海外からの渡航者も復活してくるでしょう。そもそも、観光とは何かを考えると、地域にある歴史や文化、そこに住んでいる人が観光資源であり、それを外から来るお客さんが楽しんでお金を落としてくれること。地域の培ってきた資源を活用することが観光産業だと思っています。現在の少子高齢化の中で地域が生き残りをかけて行う施策の一つが観光で、そこには大きな可能性があります。観光で初めてその地域と接点を持った観光客が、再度その地域に訪れる。こうして、交流人口が増え、移住人口が増えると、その地域の人口減少に歯止めがかかる効果もあります。観光はそれ自体が「目的」ではなく、地域振興のための非常に有力な「手段」だと思いますし、それを使わない手はないと思います。

CONTENTS

特集：ニューノーマル時代の観光再生

SPECIAL INTERVIEW	
村山 慶輔 氏	1
SPECIAL EDITION	
さくらオーバルフォート	5
松江市総合体育館 4面センターハングLEDビジョン	9
ロマンスカーミュージアム	11
宮城県 松島離宮	13
中島・湖の森博物館	15
白馬岩岳 e-MTB STATION	17
Minn 蒲田	19
くらしは文化	
奈良ホテル	21

※本誌では略称を用いています。また、一部敬称は略させていただきます。
表紙写真：白馬岩岳 e-MTB STATION

「量」から「質」へ 持続可能な観光に

— コロナ後の観光はどのように変化するのでしょうか。

日本政府も成長戦略の一つの柱として観光には非常に力を入れ、予算も投入しています。訪日観光客はコロナ禍で激減したものの、政府は2030年に年間6,000万人という目標を立て、これを継続する目標設定もしています。しかし、これまでのように「量」を追求してはいけません。かねてより、オーバーツーリズムや観光公害という言葉も聞かれ、観光客が市民の生活エリアに入ってきてバスや電車が混雑して乗れないなど、市民生活に支障をきたす状況もありました。そこで重要になるのが持続可能な観光です。地域住民、観光事業者、働き手など、多様なステークホルダーが幸せになるような「質」を考えた観光設計が必要です。現在、日本の人口は減少していて、2050年頃には1億人を割り、減少が続くといわれています。少子高齢化により国内の見込み客は確実に減少し、観光業に従事する働き手も減ってきます。しかも、観光産業は生産性が低いので、働き手も集まりづらいのです。逆境の今こそ、観光産業を根底から「量」から「質」へと転換させるチャンスです。そのために重要なキーワードが、「高付加価値化」と「リピーターの育成」です。

地域教育が生む 地域への誇り

— 観光の「高付加価値化」とは何でしょうか。

観光のニーズは、物見遊山から、地域のディープな体験へと変化しています。「地域ならではの食を体験したい」とか、「その土地の人と触れ合いたい」というニーズが高まっています。「その地域ならではの」を体験するためにお金を払う傾向が強まっているのです。その要望を満たすには、地域の皆さんの協力がなくて始まりません。住民が大人から子どもまで、地元で誇りを持って地域自慢をしてくれたら、旅行者はそれを体験したいと思うのです。自信を持って「絶対これは食べて帰って」と言われたら、食べて帰りますよね。自分のお国自慢をする人が増えることがとても大切です。その時、私がとくに重要視しているのは子どもたちです。子どもたちが大人になって、その地域を愛せず、人に伝えたいと思わなければ、観光客も訪れません。まず、子どもたちに、地域の魅力を学んでもらうところから始めなくてはなりません。

三重県の鳥羽市には、地域ならではの体験を提供されている観光事業者があります。そこでは海女さんと一緒に食事をしたり、「島っ子ガイド」という子どもたちが地域を案内するプログラムが提供されています。地域の人びとが地元を理解し、それを外の人に伝え、外の人が評価してくれて「自分の地域って良いよね」と感じる、こういう良い循環が回っているのです。こんな仕組みを日本各地で作っていくことが、中長期的に地域をうまく観光で盛り上げる、持続可能な観光になるのだと思います。

観光CRM^{※1}で 顧客満足度を向上

— 「リピーターの育成」について教えてください。

観光客のリピーターを育成する時に、参考になるのが宮城県気仙沼の観光CRMです。気仙沼市は人口6万人程の港町です。東日本大震災の後、市は新しい産業の柱を打ち立てようと観光に舵を大きく切りました。その時、宮城・気仙沼DMO^{※2}（気仙沼観光振興機構と一般社団法人気仙沼地域戦略）が、お客様をしっかりと囲い込んで、何度もリピートして訪れてくれるようなまちづくりのビジョンを立てたのです。DMOのマーケティングを担う気仙沼地域戦略が行った取り組みの一つが「気仙沼クルーカード」で、観光CRMの役割を果たしています。気仙沼市の飲食店や土産屋でクルーのメンバーがカードやアプリを見せるとポイントが還元される仕組みで、何時どこで何を買ったかがリアルタイムで分かり、売上も分かります。今は携帯のアプリもあり、現在は会員が3万人以上です。2020年4月には緊急事態宣言が出て売上が激減しましたが、その時もいち早く把握し、市民や市内事業者を支援する施策「フレー!フレー!地元キャンペーン」を実施。ポイント3倍還元やネット通販の強化でコロナ禍でも売上減を抑えることができました。さらに、年間購買額の高いお客様をロイヤルカスタマーとして、特別なクルーズプランを提供しています。手書きのDMでシークレットプランをお送りすれば、お客様も来てくれます。気仙沼は現在の朝ドラの舞台となっていますが、朝ドラや大河ドラマの舞台になると、その時は瞬間風速的に観光客が増加しますが、すぐに終わってしまいます。ところが、気仙沼には「クルーカード」があるのです。



観光DXが アナログの価値を高める

— ホテルなどにも先端技術が導入されていますね。

今後、テクノロジーが観光業界を大きく変えていくと思っています。宿泊施設や飲食・小売業、旅行会社などの観光産業は、他の産業・業界と比べて生産性が低いことが課題となっています。これを大きく改善するにはデジタル技術が必要です。観光事業者自身が、時間と人手をかけてアナログでやっていたことを、デジタルで効率化していく事が必要なのです。もちろん、観光はおもてなしの部分も非常に重要なので全てをロボットやAIチャットに置き換えることはできませんが、人手がかかって非効率な部分はデジタル化を推進して、空いた時間をお客様へのおもてなしにあてることで、アナログの価値を高めることが重要だと思っています。また、観光客にはマイクロモビリティが非常に有効だと考えています。最近ではe-BIKEと呼ばれている電動アシスト自転車を使うと、行動範囲がとてども広がります。サンフランシスコ湾や台湾の日月潭という湖では周遊するサイクリングツアーがあって、そこをe-BIKEで巡るのですが、体力に自信がない人や年配の方でも体験できるエリアの範囲が広がり、お客様の層も広がります。そういう意味でも、新しい手段として有効です。環境省は国立公園満喫プロジェクトを推進しており、これまで保全・管理に重点を置いていた日本の自然資源を、もう少し開放して観光客に楽しんでいただき地域活性化を図ろうとしています。ここでもマイクロモビリティの導入が進んでいます。また、美術館や博物館のようにオーディオガイドで巡るツアーもあります。これまではグループ単位で行動してガイドさんから説明を聞いていたのですが、自分のスマートフォンや専用デバイスで説明を聞きながら単独やカップルで国立公園を巡ることができず。最近はエンターテインメント性の高いオーディオガイドのようなものも出てきています。これもデジタルツールがあるからこそ提供できる付加価値です。観光産業の生産性を高め、顧客の満足度を高めという意味でも、DXは大切だと思っています。



宮城・気仙沼DMOが発行している「クルーカード」とアプリ

© 宮城・気仙沼 DMO

スポーツ観光で 地域のファンをつくる

— 最近はスポーツ観光も注目されていますね。

ラグビーワールドカップが2019年に開催され、さらにオリンピック・パラリンピックも開催されました。続いて、2022年には30歳以上の人たちが世界から集まって何十種目もあるスポーツに参加するワールドマスターゲームズが関西で開催されます。日本は今、スポーツで観光振興を推進する好機にあるといえるでしょう。スポーツの強みは、世界中にスポーツ愛好家がいることです。ラグビーやサッカー、テニスでも、世界中にファンがいて、世界イベントが開催されると、その場所を訪れます。また東京マラソンや富士山マラソンでは、世界中からアスリートが集います。スポーツのファンや市民ランナーは、そのスポーツイベントに参加するために来日するのですが、結果として「日本食は良いよね。日本って意外と良かったね」と日本のファンが広がっていく。そういう効果がスポーツにはあると感じていて、スポーツは観光振興に非常に効果があると考えています。

「住んでよし、訪れてよし」

— 再度来たいと思わせる地域づくりが必要なのですね。

これから重要なのは、もう一度来たいと思える持続可能な観光にすることで、そのためには持続可能な地域にしていくことです。その考えを一つの言葉で言い表したのが、2008年に観光庁が設置された時から掲げている「住んでよし、訪れてよし」です。住んでいる人が幸せで、その結果訪れてくる人も幸せになる。これまでの観光地の取り組みを見ると「住んでよし」の部分がなござりになっていたようにも感じます。コロナ禍を経て、観光を再生していく時に「住んでよし、訪れてよし」の考え方を日本各地で再確認して、まちづくりも進めて行くべきだと考えています。

— ありがとうございました。

※1 CRM (Customer Relationship Management) : 顧客関係管理

※2 DMO (Destination Management Organization) : 観光地域づくり法人

さくらオーバルフォート



熊谷ラグビー場Aグラウンドと同じティフトン芝を使用したグラウンドには4基のナイター用LED投光器が設置されている



(上) ワイルドナイツのクラブハウスがある管理棟、1階手前はカフェレストラン「フォルテ プル」、右に屋内運動場が見える
(下) 最大264名が宿泊できる熊谷スポーツホテル「パークウィング」のある宿泊棟、1階左は「ワイルドナイツチームストア」

熊谷市・埼玉県・埼玉県ラグビーフットボール協会・地元の商工会と当社が一体となったスポーツ観光都市を創り出す取り組みが、インタビューを交えた動画でご覧いただけます。

ラグビーでつながる「さくらオーバルフォート」➡



スポーツ観光都市熊谷におけるラグビー文化発信拠点

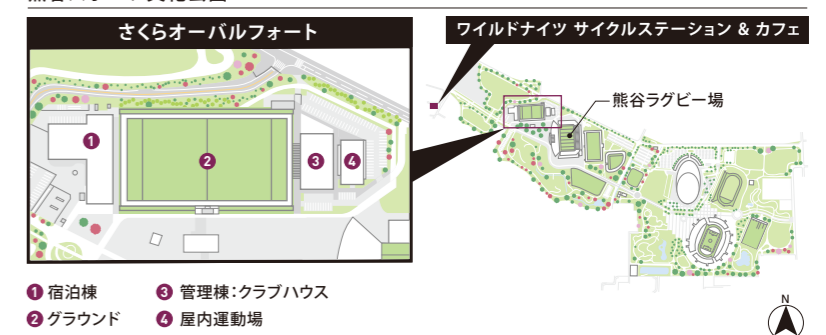
2021年9月、熊谷スポーツ文化公園内にラグビーを中心とした国内初の複合施設「さくらオーバルフォート」がオープンした。ここは1967年の埼玉国体でラグビー会場となった場所で、1991年に熊谷市は総合振興計画で「ラグビータウン熊谷」を表明。それ以降、熊谷市はラグビーを通じたまち

づくりを推進している。2004年には2度目の埼玉国体が開催され、県営熊谷スポーツ文化公園のラグビー場と陸上競技場がメイン会場となった。その後、県民・市民が一体となったワールドカップ2019の招致活動が行われ、開催が決定。埼玉県によって約24,000席を有するラグビー場が新たに整備されることとなった。このワールドカップのレガシーを有効に

生かすために埼玉県、熊谷市、埼玉県ラグビーフットボール協会、そしてここに本拠地移転を計画していた埼玉パナソニックワイルドナイツが連携して実現したのが「さくらオーバルフォート」。ワールドカップ2019の会場となった熊谷ラグビー場に隣接したこの場所で、公園の一部に施設を設置するとともにエリア全体の管理を行う許可を埼玉県から受けて、待望の施設は誕生した。

ここには管理棟、グラウンド、屋内運動場、宿泊棟が整備されており、子どもラグビー教室の拠点にすることも計画されている。さらに、近くには駅とスタジアムのアクセスを考えた「ワイルドナイツサイクルステーション & カフェ」が開業し、整形外科「スポーツクリニック（仮称）」も計画されており、この施設が世界に発信できるラグビーパークとなることが熱望されている。

熊谷スポーツ文化公園





ラグビーの楽しさを共有できる 国内初の多機能スポーツ施設

「さくらオーバルフォート」はワイルドナイツが練習に使用するグラウンドと屋内運動場に加え、管理棟と宿泊棟で形成されている。管理棟には、ワイルドナイツのクラブハウス、埼玉県ラグビーフットボール協会の事務所、1階にはカフェレストランが入居。宿泊棟には、熊谷スポーツホテル「パークウイング」や女子ラグビーチームの事務所、チームオフィシャルグッズを販売するショップなどが入居している。埼玉パナソニックワイルドナイツのゼネラルマネジャー飯島 均氏は「ラグビーは年間8試合と試合数が限られているため、年間365日ファンに来ていただけるように普段の練習が見える計画とした。本来、サインや戦術など、チーム練習は見せたくないものも多い。しかしここでは、トップチームの練習場のすぐそばで、蹴ったボールが飛んでくるという距離に宿泊施設やレストランを設け、選手が汗を流して練習していたり、食事をしている日常を間近で感じることができる。旭山動物園ではないが、トップスポーツの行動展示だ。現在の世界はバーチャルが最先端として広がっているが、スポーツ施設はリアルを中心にある社交場。このような場所に市民・県民だけでなく、国内外の人たちが集って交流を深めてほしい」と語る。今後は、この施設が核となり、周辺の整備と合わせて、スポーツ観光都市熊谷がさらに発展することが期待されている。



さくらオーバルフォート

所在地／埼玉県熊谷市上川上
事業主／一般社団法人埼玉ラグビーフットボール協会
設計監理／パナソニックホームズアライ設計 共同企業体
施工／パナソニックホームズ株式会社
竣工／管理棟：2021年7月 宿泊棟：2021年8月



治療に適した照明環境の管理棟メディカルルーム



建築化照明でリラックスできる環境のチームルーム



管理棟1階のカフェレストラン「フォルテ プル」



内装建材「ベリティス」が採用された宿泊棟スイートルーム



調光装置を装備した宿泊棟の宴会場



天井材「エアライト」が採用された宿泊棟多目的室

主な納入設備

- LED投光器 スタジアムビーム ●LED照明器具 ●ビルマルチパッケージエアコン
- 液晶方式レーザープロジェクター ●音響システム ●セキュリティシステム ●天井材「エアライト」
- 内装建材「ベリティス」 ●全自動おそうじトイレ「アラウノ」 ●太陽光発電システム

- ◀ (上) ラインアウトの練習も可能な最大高8mの
屋内運動場(延床面積:684m²)
(下) 全長30m2層吹き抜けのトレーニングルーム

ワイルドナイツサイクルステーション&カフェ



熊谷駅から熊谷ラグビー場まで、4kmあるアクセスのために設けられたサイクルステーション。ワイルドナイツブルーに塗装された電動アシスト自転車を100台整備し、市内10カ所に配置している。パブリックビューイングが提供できるカフェも併設している。



主な納入設備

- 電動アシスト自転車 ●LED照明器具
- エアコン ●全自動おそうじトイレ「アラウノ」

ウェブサイトでも
ご覧いただけます





2021-22シーズンB1リーグ戦島根スサノオマジックホーム開幕戦の選手入場シーン。
ムービングライトとレーザー光線が交差する中で、天井から吊られた4面LEDビジョンに選手紹介映像が投映される

松江市総合体育館 4面センターハングLEDビジョン

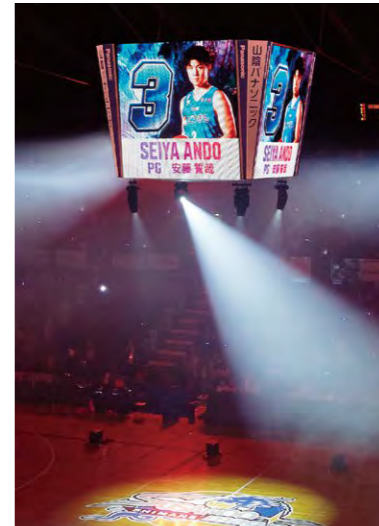
大型LEDビジョンで観客と情報共有
エンターテインメント性の高い空間に
島根県松江市にはバスケットボールが盛んだった
歴史がある。そのバスケットボールでまちおこし
をめざす市民活動がきっかけとなり、2010年、
男子プロバスケットボールチーム、島根スサノオ
マジックが誕生した。2019年にはスポーツのエ
ンターテインメント性を高めたいとする株式会
社バンダイナムコエンターテインメントが経営に
参画。2021年1月に地域貢献の一環として、チー
ムのホームアリーナである松江市総合体育館に
大型4面センターハングLEDビジョンを設置、松
江市に寄贈した。4面の3,000mm×3,000mm、

SMD型高輝度フルカラーLEDは、得点シーンは
はじめ、試合前後のイベントや選手入場、得点を
映し出す。株式会社バンダイナムコ島根スサノオ
マジック代表取締役COO中村 律氏は、「美しい
発色、鮮明な画像でエンターテインメント性、ラ
イブ感が高まった。まちのエンターテインメント
のシンボルとしてお客様から高評価を得ている。
LEDビジョンは観客を一つにまとめるキーアイテ
ム。今後は会場だけでなく世界へ情報発信する
など、デジタルトランスフォーメーションの充実が
テーマ」と語る。2026年には新B1リーグが始動。
チームはバスケットボールでまちを活性化し、地
域や近隣県民とともに日本一をめざしていく。

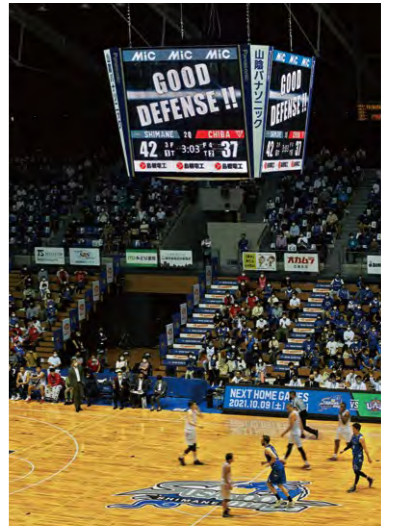


松江市総合体育館 4面センターハングLEDビジョン

■LEDビジョン設置工事
所 在 地／島根県松江市学園南
設 計 施 工／島根電工株式会社
設 計 監 修／株式会社日建設計
契 約 窓 口／山陰パナソニック株式会社
竣 工／2021年1月



オープニングを光・音と連動して感動的に
盛り上げる4面LEDビジョンの映像



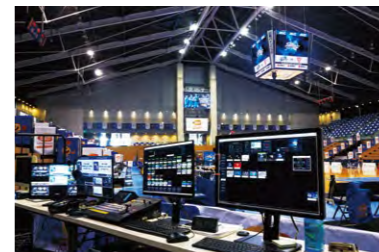
ゲーム展開に合わせて応援メッセージを表示し、
ファンと一体となった熱い空間を生み出す



リプレイ再生やチーム得点・個人スタッツ情報も、
他システムと連携してリアルタイムに情報提供が可能



底面の落下防止幕の中には、災害避難所となった際に
使用できる調光可能な照明器具が設置されている

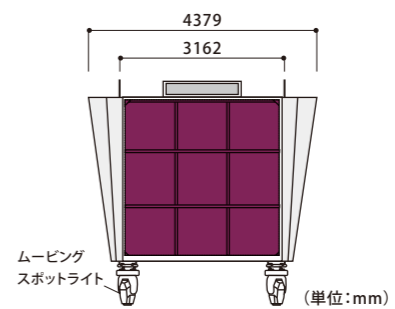


アリーナ内の仮設映像操作卓



映像送出装置

4面センターハングLEDビジョン



主な納入設備

- 4面センターハングLEDビジョン
- 映像送出装置
- 昇降装置
- LED舞台用照明器具

ウェブサイトでも
ご覧いただけます





「魅せる検車庫」のコンセプトによる、シンプルな内装の車両展示室。台車にはシームレス建築化照明器具を配置。
TOLSO BeAm Freeスポットライトは配光調整ができ、WiLIA無線調光システムによって照度変更が可能

ロマンスカーミュージアム

箱根観光を支えたロマンスカーが一堂に会した「魅せる検車庫」

小田急電鉄海老名駅に隣接して、歴代車両が実物展示されたロマンスカーミュージアムが2021年4月にオープンした。「新宿－小田原間を60分以内で結ぶことを目指し、高速走行のために重心を低くした流線型の特急ロマンスカー。その後、旅の時間を充実させるために進化してきた車両を長年保存していたが、お客様とのコミュニケーションの機会を作るための常設展示を計画。電車基地があり、当社が駅前でまちづくりを進めている海老名駅に建設した」と、小田急電鉄株式会社 CSR・広報部 野崎 絢太氏。

「鮮やかな車両を際立たせるため、あえて建物の外装・内装をシンプルに。また、照明器具もシンプルでありながら、各種イベントに対応できるように、配光可変型のスポットライトを各所に配置して、タブレットで照度が調整できる無線調光システムも採用した」と語る。ロマンスカーミュージアムの広報担当 小泉 李緒氏は、「イベント時には搬入や展示にあわせて照度が調整できる照明のためスタッフも使いやすくて便利。今後は、周辺住民を対象に楽しんでもらおうとナイトイベントも計画。また、貸し切りで閉館後の利用も承っており、その際も調光システムは活躍している。今後も活用していきたい」と述べる。

ロマンスカーミュージアム

所在地／神奈川県海老名市めぐみ町
建築主／小田急電鉄株式会社
基本設計・デザイン監修／UDS株式会社
照明デザイン／有限会社 ソラ・アソシエイツ
実施設計・建設工事／株式会社フジタ
電気工事／株式会社関電工
竣工／2021年2月



タブレットで環境を見ながら照度設定ができるのでイベント時にも柔軟に対応できる



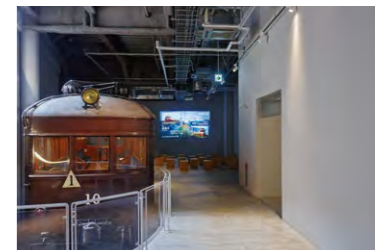
小田急沿線を再現したジオラマ



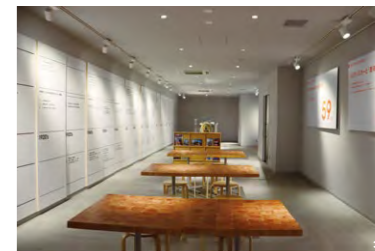
壁に手をかざすと、映像のまちが生まれ発展していくインタラクティブアート“電車とつくるまち”



ロマンスカーシミュレーター“LSE (7000形)”のコーナーに設置されたスポットライト



小田急線開業時の車両「モハ1」が展示された歴史シアター



可変配光のTOLSO BeAm Freeスポットライトが採用された「ロマンスカーアカデミア」

主な納入設備

- TOLSO BeAm Freeスポットライト
- LEDダウンライト
- LEDライン照明
- WiLIA無線調光システム
- シームレス建築化照明器具 C-Slim S
- レーザープロジェクター

ウェブサイトでも
ご覧いただけます



*画像提供：ロマンスカーミュージアム



離宮庭園の岩壁を小型LEDフルカラー投光器「ダイナワン」、植栽の紅葉を「彩光色スポットライト」によりライトアップし、レツルタワー塔頂の金箔貼り相輪を「ダイナシューター」で際立たせている

宮城県 松島離宮

松島観光の新拠点を フルカラーでダイナミック演出

被災したマリンピア松島水族館の跡地に整備された「宮城県松島離宮」は、飲食・物販店舗をはじめ、宮城県松島離宮博物館や多目的利用の離宮ホールを擁する松島観光の新拠点。背後には岩山を備えた離宮庭園が設けられ、紅葉や桜など、日本古来の樹木が植えられている。宮城県が水族館跡地における誘客の仕組みを公募し、プロポーザルによって丸山株式会社のプランが採択された。同社の経営推進事業本部部長の新沼 史智氏は「観光客が滞在できる場所だけでなく、地域住民の交流拠点として計画した。

ヤン・レツル氏の設計で1913（大正2）年に開業し、松島の人たちに親しまれていた『松島パークホテル』を意匠的に継承している。当時のホテル正面にそびえていた十角三重塔を、遺された設計図に基づいて職人による手仕事で忠実に再現し『レツルタワー』と名付けた」と語る。夜には建物と豊かな植栽に覆われた庭園全体で季節に合わせたライトアップ演出が行われている。新沼氏は「松島の福浦橋のライトアップを見てパナソニックの器具に決定した。今後、松島エリア全体のライトアップが実現できれば、同一システムの方が演出の可能性も広がるのでは」と将来の松島の夜を展望する。



宮城県 松島離宮

所在地／宮城県宮城郡松島町
事業主／丸山株式会社
設計／菅野宏史建築設計事務所
照明設計／ライティングラボラトリー合同会社
竣工／2020年10月



グレアレスダウンライトと小型投光器により柱を際立たせているファサード



「ダイナワン」でダイナミックな演出が行われている離宮庭園の岩壁を屋上から望む



「宮城県松島離宮博物館」に設置されたスポットライト



ワークショップに利用される「離宮ホール」に設けられたシームレス建築化照明



料金所に設置されたデジタルサイネージ



物販店舗内のデジタルサイネージ
表示データはネットワーク管理されている

主な納入設備

- ダイナワン
- ダイナシューター
- シームレス建築化照明
- LEDダウンライト
- LEDスポットライト
- デジタルサイネージ

ウェブサイトでも
ご覧いただけます





木と鉄の複合梁「テクノビーム」によって、木造建築でありながら情報全体が見渡せる柱のない空間が実現された約8m×18mの展示室

中島・湖の森博物館

木と鉄の複合梁による展示空間で 島全体を博物館とした情報を提供

約11万年前の巨大噴火により誕生した洞爺湖の中島は、ユネスコ世界ジオパークに認定された洞爺湖有珠山ジオパークの原点ともいえる。1954年に建設された洞爺湖森林博物館は、豊かな自然と緑や生き物を展示し、中島を訪れる多くの観光客や修学旅行生に親しまれてきた。「近年、観光の主体が団体から個人に移り、余暇の過ごし方も変化している。さらに急増した海外観光客への対応も必要になり、開設以降65年が経過した施設の建替えを決定。建設にあたっては『島全体』を博物館にしようと構想し、この施設は

小さいが、森林を散策するための知識と情報が得られるスタート地点と捉えた」と洞爺湖町 経済部 観光振興課 専門官。「このため、中島の自然環境やフィールド散策の情報を展示する展示室は全体が一目で見渡せるように無柱空間にしたかったので、木造でも広い柱間が確保できるテクノストラクチャー工法を採用した。また、有珠山では2000年の噴火で震度5弱の地震が数多く発生しており、先々の火山性地震や冬の積雪も考えると、耐震性や耐荷重に優れた工法を選択したことは適切だった。今後は博物館周辺も整備して、散策後もゆっくり時間が過ごせる空間を提供したい」と語る。



中島・湖の森博物館
所在地／北海道有珠郡壮瞥町字中島
事業主／洞爺湖町
設計／奥山建築設計事務所
建設工事／須藤・加藤経営建設共同企業体
展示工事／株式会社丹青社
竣工／2021年3月
建築工法／テクノストラクチャー工法



背後にある森へのスタート地点となる、洞爺湖畔に建つ博物館



館内のカフェレストラン

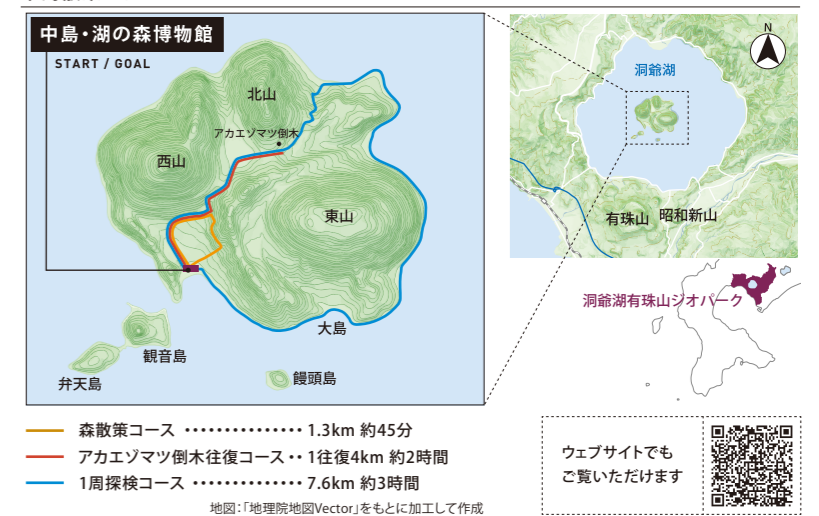


島全体が博物館とされた森散策コース



①船で運ばれたテクノストラクチャー建材 ②展示室で幅8mの柱間を実現した木と鉄の複合梁「テクノビーム」

中島散策モデルコース





白馬岩岳の壮大な景色の中、変化に富んだ地形が生み出す本格的なオフロードが体験できる山頂のe-MTBコース

白馬岩岳 e-MTB STATION

地域の魅力を引き出す e-MTB体験拠点

長野県白馬村にある白馬岩岳は、雄大な自然の中でアクティビティが楽しめるマウンテンリゾート。2019年、ここにパナソニック製e-MTB(電動アシストマウンテンバイク)を体験できる新たなコースが誕生した。

2017年から、国内ではいち早くe-MTBを展開しているパナソニック サイクルテック株式会社は2019年、オフロードでのe-MTB体験を提供するために、白馬観光開発株式会社と協業し、白馬岩岳MTB PARKでe-MTBのレンタルサービスを開始。白馬の絶好のロケーションを楽しめる専用コースを

オープンした。山頂を周遊するこの特設コースでは、電動アシストで急斜面も楽々と登坂し、美しい白馬三山を見渡す絶景ポイントまで走破することができる。初心者でも気軽に体験できるトレイルライドは、年齢や体力に関わらず、多くの人が白馬の魅力を知る機会としても期待される。季節により開催されるe-MTBのツアーイベントでは、白馬の山麓や観光スポットをガイドと一緒に巡り、地域のスポットをつないで魅力を引き出すツールとしても、好評を得ている。株式会社岩岳リゾートの担当者は「今後も白馬岩岳を、e-MTBを含む自然アクティビティの体験拠点として進化させていきたい」と語る。



山麓のガイドツアーでは白馬のスポットを巡る



長野冬季五輪で使用された白馬ジャンプ競技場



白馬連峰の豊富な雪解け水を流す「源太郎砂防ダム」



水路に沿った小道を走るのもツアーならではの

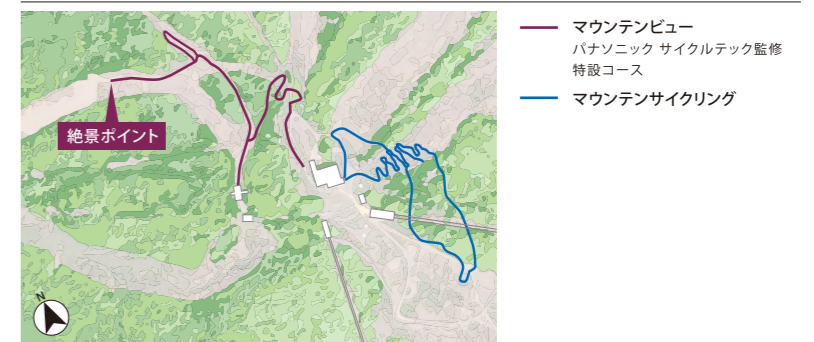


白馬駅裏の「流しかさ地蔵」は休憩スポットに



地元の店舗に立ち寄るなど、地域経済の活性化にも力を入れる

山頂e-MTBコース



主な納入設備

● 電動アシストマウンテンバイク「XM1」「XM2」

ウェブサイトでも
ご覧いただけます



※グリーンシーズンのみ営業(2021年4月29日～11月14日)



有人アバターによる非接触型チェックインが行われているフロント。スペースプレーヤーがウエルカム映像を投射している

Minn 蒲田

ホテル経営DXの実証実験を 住空間形次世代ホテルで実施

次世代型スマートホテル「Minn 蒲田」で、フロントにおける遠隔コミュニケーションサービスと客室の電力計測・遠隔制御の実証実験が行われた。ホテルでは人件費が全体の支出の約40%を占めており、省人・省力化が課題となっている。今回導入されたシステムは、遠隔地のフロントスタッフがディスプレイのアバターを介してゲストの問い合わせなどの接客を行うもの。また、客室ごとにAiSEG2を設置して、各室の電力計測や電気機器の利用把握、空調・照明のスイッチ制御を行い、さらなるコスト削減にも取り組むという。

ホテルを運営する株式会社SQUEEZEの取締役COO 山口 陽平氏は「当社は観光・ホテル業界のアップデートを図る、オペレーション×テック企業。自社でもクラウド型ホテル運営を行い、国内経営ホテルのフロント業務はほとんどカンボジアで行っている。今回、パナソニックと共同で行ったのは、エンターテインメント性をプラスした無人運営で、効果に期待している。また、客室・家電単位の電力使用量モニタは画期的で、泊数や人数ごとの利用が把握でき具体的な対策が取れる。結果として8月は機器コントロールにより約30%の削減効果があった。今後は分析をさらに進めて、適切なコントロールを図りたい」と語る。



Minn 蒲田

■ホテル経営DX実証実験
所在地／東京都大田区西蒲田5-18-18
事業主／株式会社SQUEEZE
システム設計・施工／パナソニックシステムデザイン株式会社
実施期間／2021年4月～10月



利用者のようすを確認しながら対話するオペレータ。アバターはオペレータの動きと声・しぐさに連動する



各客室にキッチン、バス、洗面の設備があり、設備と家電が電力計測されている。実験の結果、浴室乾燥機の電力使用量が高いことが確認された



チェックイン・アウト時の各部屋の電力一括オン・オフが可能

電力コントロールの詳細設定も可能

各部屋の電力使用量もスマートフォンで確認可能

主な納入設備

〔実証実験〕

● AttendStation™
● AiSEG2

〔施設〕

● スペースプレーヤー ● LED照明器具
● システムキッチン ● システムバスルーム
● 全自動おそうじトイレ「アラウーノ」
● エアコン ● 温湿度センサ

ウェブサイトでも
ご覧いただけます



奈良ホテル

古都奈良で近代和風建築を極めた 明治末期創業のホテル

奈良県の奈良ホテルは明治42(1909)年の創業。本館を設計した辰野金吾は、西洋文化であるホテルに、伝統的な日本の意匠を取り入れ和洋折衷の近代和風建築とした。ホテルは約110年を経た今も皇室や著名人など、多くの人に親しまれている。近代化産業遺産。



ロビーは洋風のホテルらしさを感じさせる吹き抜け。2階回廊に高欄、その下を折り上げ格天井風に飾るなど、和風の意匠が随所に見られる。



大階段から2階回廊へ擬宝珠高欄が続く。擬宝珠は第二次世界大戦時の金属供出後、陶器製に替わった。



真壁造の1階に対し、2階は柱を見せない大壁造。回廊を巡って展示された数々の名画が鑑賞できる。



1階「桜の間」も折り上げ天井の格式ある造り。大正11年に物理学者・アインシュタインが弾いたピアノがある。



御簾や組子が美しい箴欄間とシャンデリアで飾られた本館の客室「デラックスクラシック」。調度品も丁寧に手入れして使い続けている。



メインダイニングルーム「三笠」。二重長押、折り上げ格天井の空間に、大正11年のエドワード英国皇太子来館に際して新調され、近年、修復が完了したシャンデリアが灯る。

奈良ホテルは奈良公園に隣接して建っている。辰野金吾設計の本館は瓦葺き入母屋造の木造2階建てで、白漆喰仕上げの真壁風外壁に腰板を貼る。屋根の両端には鰐尾を載せ、妻飾りを家紋首とするなど、ホテルでありながら寺社建築を思わせる外観である。これは、明治27年竣工の帝国奈良博物館(現奈良国立博物館)がレンガ造の洋風建築だったため、当時の奈良の景観にそぐわないと批判を浴び、県議会が新築の建物は古建築と調和するよう決議したことも背景にあるという。

館内に入るとロビーは高さ約9mの吹き抜け

となる。縁取りのような回廊の上に格天井が見え、春日大社の釣燈籠をモチーフとするシャンデリアが下がる。木造和風建築には見られない天井高、回廊、回廊へ続くカーペット敷きの階段、加えて小屋組が洋風トラスであることも知られており、こうした洋風の構成に擬宝珠高欄や格天井など、日本の意匠をちりばめ、館内は和洋折衷様式としている。

奈良ホテルは日露戦争後に急増した外国人客向けに建てられ、創業当初は8〜9割が外国人客であった。富裕層の外国人客はしばしば家族も一緒に大人数で投宿するため、コネク

ティングルームも造られていた。客室はベッドや椅子といった洋風の仕様だが、中には箴欄間や御簾をあしらった部屋があり、今も創業当初の趣を色濃く伝えている。また、フランス料理を供するメインダイニングルームも洋風の空間ながら二重長押を回し、蟻壁を設けて折り上げ格天井とする書院造の意匠を併せ持つ。

奈良ホテルは明治期に西洋文化を近代和風建築として表現した貴重な建物である。2020年にはホテルの文化的価値に配慮した耐震補強改修工事が竣工。歴史ある建物を次の100年に受け継ぐ準備が整った。



鰐尾を載せた瓦屋根、白漆喰の外壁など、寺社のようなたたずまいが古都奈良の風情と調和している。ほぼ中央に車寄せを設け、宿泊棟は雁行して東に伸びる。



車寄せの柱梁はヒノキ、格天井は杉材。柱に打たれた釘隠しの乳唄(ちちばい)は寺院建築で見られる飾り。



①鰐尾 ②懸魚。火伏せの願いを込めた装飾とされる。



①鳥居型の飾り付きマントルピース。大正初期まで石炭を焚いてロビーや客室で使用した。②当時は数室分の煙・熱を集約し煙突から排気していた。



本館耐震補強工事に採用された複層斜交重ね板壁

用語説明

【辰野金吾】工部大学校造家学科(東京大学工学部的前身)1期生。同校教授として、また設計者として明治・大正期の建築界に貢献。日本銀行本店や東京駅を設計した。

【真壁風】大壁造の外壁に化粧板を貼って付け柱・付け梁とし、真壁に見せている。

【家紋首】椀首(梁や桁の上に載せ、山形に組み合わせて小屋組みを構成する斜材材)の中央に束を立てたもの。

【箴欄間】縦格子や縦格子に2〜3本の横棧の入った欄間。書院造などで用いられる。

【蟻壁】書院や客殿で天井直下に設けられた丈の低い壁。

【乳唄】これも戦時中に供出したため木製で代用している。

【実別ぎ】一方の板の側面に彫った溝に他方の板に作った突起を差し込んで接合する方法。

奈良県奈良市高畑町1096
協力:奈良ホテル



パナソニックの空間ソリューション WEBサイト

<https://www2.panasonic.biz/ls/solution/>



パナソニック リビング ショールーム

<https://sumai.panasonic.jp/sr/>



コーポレートショールーム パナソニックセンター

<https://www.panasonic.com/jp/corporate/center.html>



札幌

〒060-0809 札幌市北区北9条西2丁目1番地
☎0800-170-3820

仙台

〒980-0014 仙台市青葉区本町2丁目4番6号
仙台本町三井ビルディング1F
☎0800-170-3830

東京

(汐留)

〒105-8301 東京都港区東新橋1丁目5番1号
☎0800-170-3840

横浜

〒221-0056 横浜市神奈川区金港町2番6号 横浜プラザビル1F
☎0800-170-3841

名古屋

〒450-8611 名古屋市中村区名駅南2丁目7番55号
☎0800-170-3850

広島

〒730-8577 広島市中区中町7番1号
☎0800-170-3870

福岡

〒810-8530 福岡市中央区薬院3丁目1番24号
☎0800-170-3880

東京

(有明)

〒135-0063 東京都江東区有明3丁目5番1号
☎(03) 3599-2600

大阪

〒530-0011 大阪市北区大深町4番20号
グランフロント大阪 南館 (2F～B1F)
☎0800-170-3860

※開館日や時間を変更したり、事前ご予約制とさせていただく場合があります。
ショールームで来場の際には、ウェブサイトで事前にご確認ください。

お問い合わせ

☎ (06) 6908-1131・大代表



パナソニックのソリューションに関するお問合せはこちら ➡

<https://sumai.panasonic.jp/support/confirmation.html?solution>



継続能力開発 (CPD) 自習型認定研修

設 問

次のうち誤っているものはどれか。

- a. 大排気量のバイクを電動化したものが、e-BIKEである。
- b. マイクロツーリズムとは、近隣への観光のことである。
- c. オーバーツーリズムとは、過剰な観光客による観光公害である。

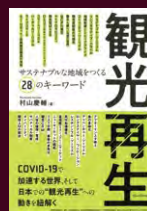
関連情報は本誌に掲載されています。

建築士会CPD制度の回答は下記WEBサイトから。
<https://www.kenchikushikai.or.jp/cpd-new/cpd-index.html>

この情報誌は、公益社団法人 日本建築士会連合会の継続能力開発 (CPD) の「自習型認定研修」教材として認定されています。

皆様のご意見をお聞かせください

皆様のお役に立てるよう、『建築設計REPORT』の編集内容をより充実させていきたいと考えています。下記サイトにアクセスいただき、5問程度のアンケートにご協力ください。



抽選で10名様に村山慶輔氏の著書
「観光再生」を差し上げます。

【応募締切】2022年1月31日(月)

アンケートはこちら ➡

<https://www2.panasonic.biz/ls/solution/report/archi/qe/>

